



**研究領域名** ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：  
学習能力の進化に基づく実証的研究

**研究期間** 平成22年度～平成26年度（5年間）

高知工科大学・総合研究所・教授 **あかざわ たける**  
**赤澤 威**

### 【本領域の目的】

本領域は、20 万年前の新人ホモ・サピエンス誕生以降、アフリカを起点にして世界各地で漸進的に進行した新人と旧人ネアンデルタールの交替劇を、生存戦略上の問題解決に成功した社会と失敗した社会として捉え、その相違をヒトの学習という視点にたって調査研究する。そして、交替劇は、旧人と新人の間に存在した学習能力差が原因で起こったとする作業仮説（以下「学習仮説」と称する）をたて、それを実証的に検証する。

### 【本領域の内容】

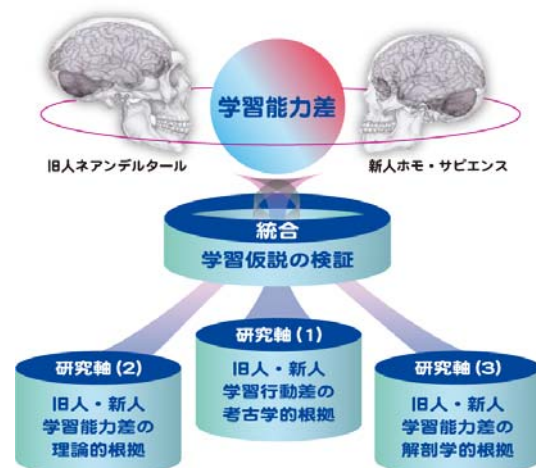
世界各地に入植していった新人サピエンスが先々で対峙することになった先住民ネアンデルタールとの間にどのような事態が生じたか。ネアンデルタールは次第に消滅してゆき、絶滅した。この顛末は化石、考古資料、遺伝子の世界で明らかにされてきたが、なぜ新人に軍配が上がったのか、何が両者の命運を分けたのか、まだ誰も答えを持ち合わせない。本領域は、交替劇の原因を両者の学習能力に求め、その違いによって交替劇が起こったとする学習仮説をたて、検証する。

学習仮説の本質は、旧人と新人の違いを、外的条件の変化に対する適応能力の優劣といった量的相違ではなく、学習能力という質的相違として捉えるところにある。そして、その相違によって、交替期の時代状況に対して、伝統文化を堅持しながら対処する旧人社会と新文化を創造し対処する新人社会とが競い合うという状況が生まれることになり、その文化格差が結局両者の命運を分けることになった。以上が学習仮説の本質的意味である。

領域研究の具体的目標は学習仮説を検証することであり、人文系・生物系・理工系諸分野の研究者による新たな視点や手法に基づく異分野連携研究の推進のもとに以下の研究を行う（挿図参照）。  
研究軸(1)：旧人・新人の間に学習行動差が存在したことを実証的に明らかにすること、  
研究軸(2)：旧人・新人の間に学習能力差が生ずるに至った経緯を理論的かつ実証的に明らかにすること、  
研究軸(3)：旧人・新人の間の学習能力差の存在を両者の脳の神経基盤の形態差という解剖学的証拠で明らかにすることである。

領域全体構想は、上記三つの研究軸の研究成果

の相互乗り入れをはかり、その有機的結合によって学習仮説を総合的に検証することにある。そして、新人サピエンスに特異的な高い知能や彼らの現代的行動がどのような外的条件のもと、どのような経緯で獲得されたかを「学習」の視点から見極める道筋を拓き、われわれ人類がどのような歩みを経て今日に至ったかを俯瞰する新たな実証的進化モデルの構築をめざす。



### 【期待される成果】

交替劇の真相を、生存戦略上の諸問題の解決に成功した社会と失敗した社会として捉え、その相違を学習能力の進化の視点から調査する研究は世界的に嚆矢である。本領域の推進は交替劇研究のブレイクスルーを開くことになる。しかも、本研究では、これまで交替劇研究に取り組んできた専門領域（考古学・化石人類学・遺伝学等）の世界に分断的に蓄積されてきた様々な専門知を、単なる寄せ集めではなく、学習という共有概念を媒介として統合し、ヒトの進化について新しい実証モデルの提示を目指す点においてきわめて独創的である。この全体構想は、交替劇論争に関する既設仮説モデルを検証し、より普遍的な知の体系を創出するという意味において、かつ、現代人起源論争の新たな展開という観点において学術的貢献はきわめて大である。

### 【キーワード】

ネアンデルタール、現生人類、学習能力、旧人・新人交替劇、人類進化